

女子高校生の大学進学に関する意識

High School Girl Students' Opinions on Entrance into a College

深田成子・高野卓郎*

Seiko FUKADA and Takuro TAKANO

The research was designed to investigate senior high school girl students' opinions whether they should go to college. The subjects were 1891 high school girl students. Main results were as follows. (1) About 90%, 80%, 80%, or 60% of high school girl students wish go to a college (not a junior college), a local college (and a junior college), a private college (and a junior college) or a women's college (and a junior college), respectively. (2) They wish to enter the department of English language and literature and of human science in a private women's college located in Hiroshima City. This research proved that high school girl students were in dire need of more private women's colleges in Hiroshima City.

問 題

1. 高校生の大学進学意識に関する先行研究

高校生の短大を含めた大学進学率は15年程前に既に同一年齢者の4割に近いといわれていたが(米田, 1979), 1991年の大学審議会の第3次答申では平成12年度の現役志願率を51.2%と推定している。このように, 高校生の進学率は上昇傾向を示している。

では, 大学に進学する際に高校生は, どのような要因(志望動機)を重視し, 希望する大学や学部・専攻を選ぶのであろうか。榎藤(1974)は, 九州7県23校の高校3年生の進路決定に関連する諸要因の調査研究から, 進学希望者の進学の動機の第1位は男女共に「一般教養・視野の拡大」であり, 第2位は男子では「将来の安定した生活のため」, 女子では「専門的職業技術を身につける」と異なり, 第3位は男女共に「青春の謳歌」であることを見出した。また, 進学希望校選択要因の第1位は男女共に「将来の人生設計」であるが, 男子の場合は「入試に合格できること」も同率1位であり, 女子の第2位と男子の第3位は「自分の性格にあってること」であり, 女子の第3位は「趣味・

特技を生かせること」であった。

浜田(1975)は, 九州5県17校の高校2・3年生の進学志望動機の因子分析の研究から, 進学率の高い有名校に多い「勉学型」動機, 地方都市の公立高校または中産階級の子弟に多い「学歴偏重型」動機, 私立男子校に多いまわりに追随するという「同調型」動機, 比較的女子に多い「何となく型」動機の4つを見出した。浜田(1975)は, 志望動機は単一の構造で作られているものではなく, 少なくとも5因子(追随型, 学業志向型, 学歴偏重型, 模索型, 無自覚型)の組合せによる複雑な動機であり, それゆえ進学行動はきわめて多様な様相をもつことを示唆している。榎藤(1974)及び浜田(1975)より, 男子と女子とでは, 大学を選ぶ際の志望動機や大学を決定する要因が異なる可能性のあることがわかった。

新入生が何を期待して大学に進学してきたか, つまり, 既に入學してきた学生が高校生の際に持っていた志望動機の研究には米田(1979)がある。米田(1979)の1978年の調査によれば, 志望動機の順位は男女共に, 「専門的学問, 技術」, 「教養, 人間的成長」, 「大学生生活をエンジョイする」, 「就職の条件をよくする」, 「人間的接触をうる」の順であり, 学部・学科選択要因の順位は, 「自己の適性」, 「合格の可能性」, 「卒業後の就職」, 「学部学科の性質」の順であった。米田(1979)の1978年の調査では男女の順位に差はなかったが, 1960

*比治山女子短期大学幼児教育科

年の同一調査項目による調査結果と比較すると、女子において就職への関心が急浮上してきたことで、男女差がなくなっていることが示されている。ただし、これはある特定の大学に入学した男女学生について調べており、現役高校生の志望動機へと単純に一般化できるものではないと思われる。

淵上(1984)は、九州S市の高校3年生の大学進学志望動機の因子分析研究から、大学の本来の機能(浜田(1975)の学業志向型に相当)、モトリアム機能(模索型、無自覚型、追従型)、大学の経済価値機能(学歴重視型)、家族への配慮と規範機能(両親の面倒をみたい、両親がすすめるなど)、大学の副次的機能(クラブに入りたい、多くの人と知り合いになりたいなど)の5因子を見出し、このうちの大学の経済価値機能については、女子より男子に多くみられたと報告している。淵上(1984)の研究から、進学志望動機には本人の意志のみならず家族や大学入学後のクラブ活動なども関係することが明らかになり、大学志望動機や大学選択要因を明らかにするためには、様々な観点から具体的な項目を想定して検討する必要があることが明らかになった。

井上・上野・野口(1975)は、東京、中国地方(広島)、東北地方(青森、秋田、岩手)の9校における大学受験と高校生活の調査から、進路の決定時期、進学希望校、進学の目的の地域差が見られること及び男女差が報告されている。志望動機に相当する進学の目的に関しては、男子では「専門知識・資格を得る」「したいことをする」「将来に有利」「青春を楽しむ」の順に最重要とされており地域差はみられなかったが、女子では顕著な差が生じ、地方に比べ東京では「青春を楽しむ」「独立延期」という優雅な学生生活志向が多くみられた。中国地方(広島)の女子の進学の目的は、「専門知識・資格を得る」「したいことをする」「学問」「教養」の順に最重要となっており、男子と同一にはなっていない。このように、志望動機に関しては、性差だけでなく、地域差も念頭に置く必要があると思われる。

したがって、中枢管理機能を持つ中国地方唯一の政令指定都市である広島市及びその周辺に居住する高校生は、首都圏や他地域の高校生に比べて、独自の大学進学意識をもっている可能性も考えられる。そこで、広島市内及びその近郊の高校生が、大学進学の際にどのような志望動機を持ち、大学選択の際にはどのような要因を重視するのか、また、どのような学科・専攻の志望を持っているかを明らかにする必要がある。

2. 広島市内での私立四年制大学の新設可能性

大学・短期大学の進学年齢層である18歳人口は、平成5年度以降に急激な減少期を迎え、大学・短期大学は、生き残りをかけた改革が求められる「冬の時代」に入る。高校生の短期大学離れ・四年制大学志向が強まる中、地方の私立短期大学が直面する危機は一層深刻である。私立短期大学がこうした危機を乗り越えるための最も一般的で確実な方法は、四年制大学への移行あるいは四年制大学の新設であろう。比治山女子短期大学を抱える学校法人比治山学園にとっても、将来にわたって永く高等教育の一翼を担い続けるには、学園として四年制大学の新設問題を選けて通ることはできない。本研究は、広島市内における私立四年制大学の設置可能性、すなわち比治山大学の設置可能性を探るという極めて現実的な問題解決を指向したアクション・リサーチの一環として計画された。比治山大学の設置可能性は、社会(高校生、保護者、企業等)のニーズに依存することは言うまでもないことであるが、国策としての大学設置の方針とも切り離して考えることはできない。そこで、広島市内における私立四年制大学の設置可能性の問題について、「大学審議会」の第3次答申を中心に探ることにする。

文部大臣の諮問機関として昭和59年から昭和62年にかけて設置された「臨時教育審議会」は、高等教育全般にわたる改革課題を指摘し、高等教育の具体的な改革方策を検討するための「大学審議会」の創設を提言した。こうした提言を受け、昭和62年9月に「大学審議会」が創設され、同審議会に対して、「大学等における教育研究の高度化、個性化及び活性化等のための具体的方策について」の諮問が付された。諮問の要点は、「教育研究の高度化」、「高等教育の個性化」、「組織運営の活性化」の3点であった。昭和63年12月に「大学審議会」は、「大学院制度の弾力化について」の第1次答申を提出し、これに伴い平成元年9月に大学院設置基準等の改正が行われた。続いて、平成3年2月に、「大学教育の改善について」、「学位制度の見直し及び大学院の評価について」、「学位授与機関の創設について」、「短期大学教育の改善について」、「高等専門学校教育の改善について」という5つの柱からなる第2次答申が提出され、これが平成3年3月の学校教育法等の改正へと展開していった。さらに平成3年5月に、大学審議会は、「平成5年度以降の高等教育の計画的整備について」、「大学院の整備充実について」、「大学設置基準等及び学位規則の改正について」、「高等専門学校設置基準の改正について」という4つの柱からなる

第3次答申を提出した。これが平成3年7月の大学設置基準の改正へとつながった。

大学審議会の第3次答申の第1番目の柱である「平成5年度以降の高等教育の計画的整備について」の答申内容は、18歳人口の急減期にあたる平成5年度から平成12年度までの8年間の高等教育の質的・量的な整備の基本的な在り方をまとめ、高等教育計画を策定しようとするものであった。この「平成5年度以降の高等教育の計画的整備について」は、「高等教育の質的充実」と「高等教育の規模等」の2つの大項目からなる。前者の「高等教育の質的充実」は、①教育機能の強化（時代の変化への対応能力の育成、学生の学習に配慮した教育プログラムの提供、教員の教育能力・意欲の向上、学生の国際交流に配慮した教育内容・方法の工夫）、②世界的水準の教育研究（教育研究環境の高度化、研究の後継者の確保・育成）、③生涯学習等への対応（履修形態等の柔軟化、多様な学習成果に対する評価の工夫、地域社会への積極的な貢献）をその内容とする。後者の「高等教育の規模等」は、①高等教育の規模と②地域配置をその内容に含み、この点が私立短期大学の四年制大学設置問題と密接な関わりを持つ。

「高等教育の規模等」に関する答申内容の要旨は次の通りであった。高等教育への進学年齢層である18歳人口は、平成4年度の205万人をピークに、平成5年度以降急激な減少期に入り、平成12年度にはピーク時の54万人減の151万人となる。その一方で、大学等への志願率は上昇傾向にあり、社会人学生や外国人留学生など新しい学生層の大幅拡大が見込まれる。このように、18歳人口の減少、志願率の推移、社会人学生・外国人留学生の拡大等の要因を考慮し、学部レベルの将来の高等教育規模に関する複数のケースを想定する。すなわち、平成12年度の大学・短期大学及び高等専門学校の規模として、①64万9千人、②66万7千人、③68万2千人の3ケースを想定するが、当面は①の64万9千人を念頭に置く。いずれのケースも、平成4年度の入学者73万8千人を下回り、特に①のケースは、平成4年度の入学者数に比べて、10%以上も下回る想定である。したがって、戦後一貫して続いてきた大学の量的拡大策を初めて縮小方向に転換し、大学等の新增設を原則的に抑制する方針で臨むという姿勢が打ち出された。

また、「地域配置」に関する答申内容の要旨は次の通りであった。大学等の地域配置及び専門分野構成については、地域間格差の是正を基本とし、大都市圏への進学者の過度の集中を緩和し、地方の中核都市及びその周辺地域における整備を重視する。すなわち、首都

圏、近畿圏、中部圏の3大都市圏での大学等の新增設を抑制する方針を明示し、他方、これら3大都市圏以外の札幌、仙台、広島、北九州、福岡といった政令指定都市については、これまでの大学設置の地域制限枠を例外的に解除し、必要最小限の新增設を認め、学生の地方中核都市への分散を促進しようとする意図が明確に示された。

したがって、広島市及びその近郊であれば、地域社会のニーズに応える専門分野から構成される私立四年制大学の新設は、十分可能であると判断できる。

3. 本研究の目的

本研究は、学校法人比治山学園における比治山大学設置の具体的方途を探ることを究極の目的として、広島市内における私立四年制女子大学の設置に対する地域社会のニーズを明らかにしようと計画された「大学進学意識に関する研究」の一部である。本研究では、地域社会のニーズの中で最も重要な女子高校生のニーズに焦点を絞り、潜在的大学進学者である女子高校生の大学進学意識を検討する。

本研究の具体的な目的は、広島市内及びその近郊に居住する女子高校生が、大学進学の際にどのような志望動機を持ち、大学選択の際にはどのような要因を重視するのか、また、どのような学科・専攻の志望を持っているのかを明らかにすることである。

方 法

1. 調査対象

広島市内及び広島市内近郊の比較的進学率の高い私立女子高校1校と公立高校2校（全て普通科）の女子高校生1年生から3年生計1912名について調査を実施した。このうち、回答に不備があったものを除いた有効回答者1891名（有効回答率98.9%）をデータ分析の対象とした。学校別・学年別の有効対象者の内訳は、表1に示す通りである。

2. 手続き

(1)調査の概要

調査には、B5版で6ページの調査票とB5版で1枚の回答用紙を使用した。調査票のタイトルは「大学進学意識に関する調査（高校生用）」とした。

表1 有効対象者の学校×
学年(学科)別の内訳

対象群	学校	学年	有効対象者数
女子高校生 (普通科)	私立A高校	1年生	384
		2年生	403
		3年生	368
		全体	1,155
	公立B高校	1年生	62
		2年生	64
		3年生	78
		全体	204
	公立C高校	1年生	173
		2年生	172
		3年生	187
		全体	532
	全体	1年生	619
2年生		639	
3年生		633	
全体		1,891	

(2)調査方法と調査時期

調査は、平成3年4月上旬から5月中旬にかけて、集合調査法により教室において学級単位あるいは授業単位で実施した。

(3)調査内容

調査票の構成は、進学志望度、志望大学の規定要因、広島市内私立四年制女子大学の学科・専攻別志望度の3つの柱から構成されていた。進学志望度は、大学進学志望度(問3)、文—理系大学志望度(問4)、四年制大学志望度(問5)、私立大学志望度(問6)、地元大学志望度(問7)、女子大学志望度(問8)の6つの視点から進学志望度を測定する。志望大学の規定要因は、志望学部・学科(問9)、志望大学決定条件(問10)、大学進学目的(問11)の3つの側面から分析する。広島市内私立四年制女子大学の学科・専攻別志望度は、13の学科・専攻について志望度を比較する(問12)。

調査票に関しては、教育的配慮から公立高校においては男子についても同じ調査用紙を配付したが、あくまで女子高校生を対象として作成されており、問8と

問12は女子のみに回答を求めている。

結果と考察

1. 分析方法

本研究の最終的な対象者は大学進学志望者である。したがって、「大学(四年制または短期大学)への進学(問3)」に対して、「絶対にしたくない」と回答したデータを削除し、多少なりとも大学進学の意志を持つ最終有効対象者1878名(進学志望率99.3%)のデータを分析の対象とする。したがって、問4以降の分析において、比率の分析に使用する分母は、進学意志を示した最終有効対象者の人数である。

本研究ではそれぞれの間に対する最終対象者の回答反応に関する単純集計結果及び学年クロス集計結果から、顕著な特徴について考察する。それぞれの問ごとに各回答肢に対する反応頻度と反応率を、3学年全体と学年別に示した。なお、問2を除く問3から問8に関しては、回答肢1と2を1点(積極的志望)、回答肢3と4を2点(消極的志望)、回答肢5を3点(非志望)と3段階で得点化した。問2に関しては、回答肢1と2を1点(文科系志望)、回答肢3を2点(中間型志望)、回答肢4と5を3点(理科系志望)と3段階で得点化した。また問12(1)から問12(3)に関しては、回答肢1から3を1点から3点と得点化した。こうした反応得点の平均に関する学年差の分散分析による検定結果をそれぞれの表の(注)に示した。

2. 進学志望

(1)大学進学志望

女子高校生の大学進学志望度を「あなたは、大学(四年制大学または短期大学)へ進学したいと思いますか。〈問3〉」という設問によって尋ねた結果が、表2である。表2より、「ぜひ進学したい」、「できれば進学したい」という積極的志望が93.0%、「進学してもよいが、どちらともいえない」、「進学してもよいが、あまり気はすすまない」という消極的志望が6.3%、「絶対に進学したくない」という非志望が0.7%であった。

これより、大多数の女子高校生が大学進学を積極的に希望しており、消極的に希望する女子生徒をこれに加えると、大学進学希望者は99.3%に達することがわかる。また、大学進学志望度に関して、学年差は顕著ではなかった。

この大学進学を希望する1878人(99.3%)の女子高校生が、以後のデータ分析の対象となる。

表2 女子高校生の大学進学志望度

	1年生 N=619	2年生 N=639	3年生 N=633	全体 N=1891
1.ぜひ進学したい	75.8 (469)	67.1 (429)	79.0 (500)	73.9 (1398)
2.できれば進学したい	18.1 (112)	26.1 (167)	12.8 (81)	19.0 (360)
3.進学してもよいが、どちらともいえない	4.2 (26)	4.1 (26)	5.2 (33)	4.5 (85)
4.進学してもよいが、あまり気はすすまない	1.8 (11)	1.7 (11)	2.1 (13)	1.9 (35)
5.絶対進学したくない	0.2 (1)	0.9 (6)	0.9 (6)	0.7 (13)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
F=4.443, df=2/1888, p<.05

表3 女子高校生の文一理系大学志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.文科系	33.7 (208)	42.2 (267)	64.4 (404)	46.8 (879)
2.どちらかといえば文科系	20.9 (129)	19.9 (126)	11.5 (72)	17.4 (327)
3.どちらともいえない	23.8 (147)	14.4 (91)	6.4 (40)	14.8 (278)
4.どちらかといえば理科系	11.7 (72)	12.0 (76)	6.9 (43)	10.2 (191)
5.理科系	10.0 (62)	11.5 (73)	10.8 (68)	10.8 (203)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
F=27.609, df=2/1875, p<.001

(2)文一理系大学志望度

女子高校生の文一理系大学進学志望度を「あなたが志望する学部・学科は、文科系ですか、それとも理科系ですか。〈問4〉」という設問によって尋ねた結果が、表3である。表3より、「文科系」、「どちらかといえば文科系」という文科系志望が64.2%、「どちらともいえない」という中間型が14.8%、「理科系」「どちらかといえば理科系」という理科系志望が21.0%であり、6割以上の女子高校生が文科系志望である。文一理系大学進学志望度に関しては、顕著な学年差が存在し、学年が進むにつれて、文科系志望者が約20%も増加している。

(3)四年制大学志望度

女子高校生の四年制大学進学志望度を「あなたは、四年制大学へ行きたいと思えますか。〈問5〉」という設問によって尋ねた結果が、表4である。表4より、「ぜひ行きたい」、「できれば行きたい」という積極的志望が79.6%、「こだわらない」、「あまり気はすすまないが、行ってもよい」という消極的志望が18.4%、「絶対に行きたくない」という非志望が2.0%であった。

これより、約8割の女子高校生が四年制大学への進学を積極的に希望しており、これに消極的志望の女子生徒を加えると、四年制大学への進学意志を持つ女子高校生は98%に達し、四年制大学への進学を全く希望しない女子高校生はわずか2%にすぎない。四年制大学志望度に関しては、学年差はみられない。

表4 女子高校生の四年生大学志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.ぜひ行きたい	50.3 (311)	40.6 (257)	49.0 (307)	46.6 (875)
2.できれば行きたい	31.2 (193)	40.1 (254)	27.6 (173)	33.0 (620)
3.こだわらない	12.1 (75)	13.3 (84)	14.7 (92)	13.4 (251)
4.あまり気はすすまないが行ってもよい	4.0 (25)	4.6 (29)	6.4 (40)	5.0 (94)
5.絶対に行きたくない	2.3 (14)	1.4 (9)	2.4 (15)	2.0 (38)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
F=1.835, df=2/1875, n.s.

(4)私立大学志望度

女子高校生の私立大学進学志望度を「あなたは、私立大学（四年制大学または短期大学）へ行きたいと思えますか。〈問6〉」という設問によって尋ねた結果が、表5である。表5より、「ぜひ行きたい」、「できれば行きたい」という積極的志望が42.5%、「こだわらない」、「あまり気がすまないが、行ってもよい」という消極的志望が52.2%、「絶対に行きたくない」という非志望が5.3%であった。

これより、4割以上の女子高校生が私立大学への進学を積極的に希望しており、これに消極的志望の女子生徒を加えると、私立大学への進学意志を持つ女子高校生は95%に達し、私立大学へは絶対に進学したくないという女子高校生はわずか5%にすぎない。私立大学志望度に関しては、大きな学年差が存在し、学年が進むにつれて、私立大学への進学を積極的に希望する女子生徒が20%以上も増加している。

(5)地元大学志望度

女子高校生の地元大学進学志望度を「あなたは、地元の広島にある大学（四年制大学または短期大学）へ行きたいと思えますか。〈問7〉」という設問によって尋ねた結果が、表6である。表6より、「ぜひ行きたい」、「できれば行きたい」という積極的志望が54.6%、「こだわらない」、「あまり気がすまないが、行ってもよい」という消極的志望が37.6%、「絶対に行きたくない」という非志望が7.8%であった。

これより、半数以上の女子高校生が地元の広島にあ

る大学への進学を積極的に希望しており、これに消極的志望の女子生徒を加えると、地元の広島にある大学への進学意志を持つ女子高校生は9割を越える。これに対して、地元の広島にある大学へは絶対に行きたくないという女子生徒は1割にも満たない。地元大学志望度に関する学年差はみられない。

表6 女子高校生の地元大学志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.ぜひ行きたい	31.7 (196)	27.5 (174)	39.2 (246)	32.8 (616)
2.できれば行きたい	22.5 (139)	25.9 (164)	17.1 (107)	21.8 (410)
3.こだわらない	27.7 (171)	25.3 (160)	20.3 (127)	24.4 (458)
4.あまり気はすま ないが行って もよい	11.3 (70)	13.3 (84)	15.0 (94)	13.2 (248)
5.絶対に行きたく ない	6.8 (42)	8.1 (51)	8.5 (53)	7.8 (146)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
F=1.576, df=2/1875, n.s.

表5 女子高校生の私立大学志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.ぜひ行きたい	16.8 (104)	18.3 (116)	37.0 (232)	24.1 (452)
2.できれば行きたい	14.9 (92)	22.0 (139)	18.3 (115)	18.4 (346)
3.こだわらない	40.9 (253)	34.3 (217)	25.8 (162)	33.7 (632)
4.あまり気はすま ないが行って もよい	19.7 (122)	21.2 (134)	14.7 (92)	18.5 (348)
5.絶対に行きたく ない	7.6 (47)	4.3 (27)	4.1 (26)	5.3 (100)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
F=38.340, df=2/1875, p<.001

表7 女子高校生の女子大学志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.ぜひ行きたい	9.7 (60)	7.9 (50)	19.0 (119)	12.2 (229)
2.できれば行きたい	9.2 (57)	9.3 (59)	9.9 (62)	9.5 (178)
3.こだわらない	36.4 (225)	36.3 (230)	37.5 (235)	36.7 (690)
4.あまり気はすま ないが行って もよい	24.6 (152)	28.9 (183)	21.5 (135)	25.0 (470)
5.絶対に行きたく ない	20.1 (124)	17.5 (111)	12.1 (76)	16.6 (311)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
F=23.375, df=2/1875, p<.001

(6)女子大学志望度

女子高校生の女子大学進学志望度を「あなたは、女子大学（四年制大学または短期大学）へ行きたいと思えますか。〈問8〉」という設問によって尋ねた結果が、表7である。表7より、「ぜひ行きたい」、「できれば行きたい」という積極的志望が21.7%、「こだわらない」、「あまり気がすまないが、行ってもよい」という消極的志望が61.8%、「絶対に行きたくない」という非志望率が16.6%であった。

これより、2割以上の女子高校生が女子大学への進学を積極的に希望しており、これに消極的志望の女子生徒を加えると、女子大学への進学意志を持つ女子高校生は8割を越える。これに対して、女子大学へは絶対に進学したくないという女子高校生は2割に満たない。女子大学志望度に関しては、学年差があり、学年の進行とともに、女子大学への進学を積極的に希望する女子生徒が10%も増加している。

表8 女子高校生の志望学部・学科

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
01.法政系	17.5 (108)	13.3 (84)	15.6 (98)	15.4 (290)
02.経商系	16.8 (104)	19.1 (121)	23.0 (144)	19.6 (369)
03.人文系	62.9 (389)	64.0 (405)	65.9 (413)	64.3 (1207)
04.社会・福祉系	16.2 (100)	18.0 (114)	22.3 (140)	18.8 (354)
05.教育系	39.0 (241)	34.3 (217)	33.7 (211)	35.6 (669)
06.芸術系	28.0 (173)	22.6 (143)	16.9 (106)	22.5 (422)
07.生活系	20.2 (125)	25.8 (163)	29.5 (185)	25.2 (473)
08.理学系	18.3 (113)	16.3 (103)	8.0 (50)	14.2 (266)
09.工学系	7.1 (44)	9.6 (61)	7.5 (47)	8.1 (152)
10.医歯薬系	27.5 (170)	25.6 (162)	15.8 (99)	22.9 (431)
11.農林水畜産系	4.2 (26)	7.4 (47)	5.4 (34)	5.7 (107)

(注) 表内の数値は%、()内の数値は実数

3. 志望大学の規定要因

(1)志望学部・学科

女子高校生が、どのような学部・学科への進学を希望しているかを明らかにするために、志望学部・学科を「あなたは、どのような学部・学科に行きたいですか。志望する学部・学科を下の01~11の中から3つまで選んでください。第1志望だけでも、または第2志望まででもかまいません。〈問9〉」という設問によって尋ねた結果が、表8である。

表8より、女子高校生が最も進学を希望する学部・学科は「人文系」(64.3%)であり、これに続いて、「教育系」(35.6%)、「生活系」(25.2%)、「医歯薬系」(22.9%)、「芸術系」(22.5%)といった学部・学科への進学志望率が高い。志望学部・学科に関しては、部分的に学年差がみられ、医歯薬系、理学系、芸術系の進学志望率は、学年の進行と共に増加している。

(2)志望大学決定条件

女子高校生が、どのような条件を考慮して志望大学を決定しているかを明らかにするために、志望大学決定条件を「進学する大学（四年制大学または短期大学）を選ぶとき、あなたは、どのような条件、または何を参考にしますか。下の01~20の中からあなたが大切だと思う条件を5つ選んでください。4つ以下でもかまいません。〈問10〉」という設問によって尋ねた結果が、表9である。

表9より、女子高校生が志望大学を決定する際に最も重視する条件は、「希望する学部・学科・専攻がある」(85.8%)であり、これに続いて、「難易度（偏差値）が妥当である」(61.1%)、「希望する資格・免許がとれる」(49.8%)、「就職に有利である」(42.3%)、「施設・設備が充実している」(40.1%)、「自宅通学が可能である」(29.4%)、「授業料が安い」(29.1%)といった条件の重視率が高い。志望大学決定条件に関しては、ごく一部に学年差がみられ、「難易度（偏差値）が妥当である」という条件は、学年の進行と共により重視されている。

本研究では、進学志望動機を次の進学目的と志望大学決定条件にはっきり分けて尋ねた。その結果、大学進学の際に当然問題となる「希望する学部・学科・専攻がある」と「難易度（偏差値）が妥当である」が女子でもはっきり示されることになった。また、井上他(1975)が述べているように、女子の進学目的は、具体的に切実であり極めて現実的色彩を帯びるということが、「希望する資格・免許がとれる」、「就職に有利で

表9 女子高校生の志望大学決定条件

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
01. 受験科目が少ない	21.0 (130)	25.6 (162)	25.5 (160)	24.1 (452)
02. 難易度(偏差値)が適当である	52.4 (324)	60.8 (385)	70.0 (439)	61.1 (1148)
03. 推薦入試制度がある	20.6 (127)	22.0 (139)	13.9 (87)	18.8 (353)
04. 志望する学部・学科・専攻がある	84.3 (521)	83.1 (526)	90.0 (564)	85.8 (1611)
05. 教授陣・カリキュラムの充実	26.7 (165)	20.7 (131)	18.2 (114)	21.8 (410)
06. 施設・設備の充実	44.0 (272)	41.1 (260)	35.2 (221)	40.1 (753)
07. 大学院がある	2.6 (16)	1.9 (12)	1.8 (11)	2.1 (39)
08. 希望する資格・免許がとれる	51.0 (315)	51.3 (325)	47.2 (296)	49.8 (936)
09. 教師・親・親戚からの勧めがある	5.8 (36)	6.2 (39)	6.9 (43)	6.3 (118)
10. 先輩や家族の出身大学である	0.3 (2)	1.6 (10)	2.1 (13)	1.3 (25)
11. 友人が希望している	3.1 (19)	1.4 (9)	1.0 (6)	1.8 (34)
12. 一流・有名大学である	12.3 (76)	8.5 (54)	8.6 (54)	9.8 (184)
13. クラブ活動が盛んである	7.1 (44)	4.6 (29)	3.7 (23)	5.1 (96)
14. 受験料が安い	31.9 (197)	32.1 (203)	23.4 (147)	29.1 (547)
15. 就職に有利	46.0 (284)	42.0 (266)	38.9 (244)	42.3 (794)
16. 結婚に有利	3.7 (23)	3.9 (25)	3.3 (21)	3.7 (69)
17. 自宅通学が可能	27.3 (169)	29.4 (186)	31.6 (198)	29.4 (553)
18. 県内にある	16.8 (104)	17.1 (108)	21.7 (136)	18.5 (348)
19. 都市部にある	9.5 (59)	8.7 (55)	7.7 (48)	8.6 (162)
20. アルバイトがみつきやすい	4.4 (27)	4.7 (30)	1.9 (12)	3.7 (69)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数

ある」ことからうかがえる。さらに、淵上 (1984) のいう家族への配慮が、「自宅通学が可能である」に表れているのかもしれない。

(3) 大学進学目的

女子高校生が、どのような目的のために大学への進学を希望しているかを明らかにするために、大学進学目的を「あなたが、大学（四年制大学または短大）へ進学する目的は、何ですか。下の1～9の目的の中から、あなたが重要だと思うものを3つ選んでください。2つ以下でもかまいません。〈問11〉」という設問によって尋ねた結果が、表10である。

表10より、女子高校生が大学へ進学する目的としては、「専門的な知識を身につけるため」(54.2%)、「資格や免許をとるため」(50.2%)、「幅広い教養を身につけるため」(48.8%)、「学生生活を楽しむため」(45.5%)、「条件のよいところに就職するため」(38.9%)が上位を占めている。大学進学目的に関する学年差は、ほとんどみられない。

これらの進学目的として上位を占めた項目は、権藤

表10 女子高校生の大学進学目的

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1. 専門的な知識を身につけるため	56.0 (346)	53.1 (336)	53.6 (336)	54.2 (1018)
2. 幅広い教養を身につけるため	49.2 (304)	47.2 (299)	50.1 (314)	48.8 (917)
3. 技術を身につけるため	23.8 (147)	19.1 (121)	16.3 (102)	19.7 (370)
4. 資格や免許をとるため	51.1 (316)	50.2 (318)	49.3 (309)	50.2 (943)
5. 条件のよいところに就職するため	38.5 (238)	41.4 (262)	36.8 (231)	38.9 (731)
6. 条件のよい結婚をするため	4.4 (27)	5.1 (32)	4.8 (30)	4.7 (89)
7. 学生生活を楽しむため	40.1 (248)	48.0 (304)	48.2 (302)	45.5 (854)
8. クラブ活動をするため	4.5 (28)	2.2 (14)	1.9 (12)	2.9 (54)
9. 友達をつくるため	16.3 (101)	17.7 (112)	16.6 (104)	16.9 (317)

(注) 表内の数値は%、()内の数値は実数

(1974)、井上他 (1975)、米田 (1979) でみられたものとはほぼ一致していた。

4. 広島市内私立四年制女子大学の

学科・専攻別志望度

女子高校生が、広島市内私立四年制女子大学の特定の学科・専攻への進学をどれくらい希望しているかを明らかにするために、13の学科・専攻に対する志望度を「広島市内の私立四年制女子大学に下におけるような学科・専攻があるとしたら、あなたは、それぞれの学科・専攻にどれくらい進学したいと思いますか。すべての学科・専攻について応えてください。〈問12〉」という設問によって尋ねた結果が、表11から表23である。

(1) 法政系の学科・専攻志望度

法政系の学科・専攻については、「進学したい」という積極的志望が9.2%、「進学してもよい」という消極的志望が37.6%、「進学したくない」という非志望が53.2%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に希望する女子高校生は少なく、消極的な希望を加えても、進学の意志を持つ女子高校生は半数に満たない。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差はほとんどみられない。

(2) 経経商系の学科・専攻志望度

経経商系の学科・専攻については、「進学したい」という積極的志望が10.5%、「進学してもよい」という消極的志望が42.9%、「進学したくない」という非志望が46.5%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に希望する女子高校生は少なく、消極的な希望を加

表11 女子高校生の法政系の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1. 進学したい	8.9 (55)	7.9 (50)	10.7 (67)	9.2 (172)
2. 進学してもよい	37.2 (230)	40.3 (255)	35.4 (222)	37.6 (707)
3. 進学したくない	53.9 (333)	51.8 (328)	53.9 (338)	53.2 (999)

(注) 表内の数値は%、()内の数値は実数
F=0.113, df=2/1875, n.s.

えても、進学を志す女子高校生は5割強にすぎない。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差はいくらかみられ、学年が進むにつれて、進学を積極的に希望する女子高校生がやや増加している。

(3)日本語・文学系の学科・専攻志望度

日本語・文学系の学科・専攻については、「進学したい」という積極的志望が19.3%、「進学してもよい」という消極的志望が43.6%、「進学したくない」という非志望が37.1%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に希望する女子高校生は約2割であり、消極的な希望を加えると、進学を志す女子高校生は6割を超える。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差はいくらかみられ、学年が進むにつれて、進学を積極的に希望する女子高校生がやや増加している。

表12 女子高校生の経商系の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.進学したい	6.1 (38)	10.6 (67)	14.8 (93)	10.5 (198)
2.進学してもよい	42.4 (262)	45.2 (286)	41.1 (258)	42.9 (806)
3.進学したくない	51.5 (318)	44.2 (280)	44.0 (276)	46.5 (874)

(注) 表内の数値は%、()内の数値は実数
 $F=9.847, df=2/1875, p<.001$

表13 女子高校生の日本語・文学系の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.進学したい	14.2 (88)	20.7 (131)	23.0 (144)	19.3 (363)
2.進学してもよい	47.7 (295)	44.2 (280)	38.9 (244)	43.6 (819)
3.進学したくない	38.0 (235)	35.1 (222)	38.1 (239)	37.1 (696)

(注) 表内の数値は%、()内の数値は実数
 $F=3.194, df=2/1875, p<.05$

(4)英米語・文学系の学科・専攻志望度

英米語・文学系の学科・専攻については、「進学したい」という積極的志望が42.9%、「進学してもよい」という消極的志望が34.2%、「進学したくない」という非志望が22.9%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に希望する女子高校生は約4割以上に達し、消極的な希望を加えると、進学を志す女子高校生は8割近くにもなる。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差はほとんどみられない。

(5)歴史・文化系の学科・専攻志望度

歴史・文学系の学科・専攻については、「進学したい」という積極的志望が24.3%、「進学してもよい」という消極的志望が42.5%、「進学したくない」という非志望が33.2%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に希望する女子高校生は2割を超え、消極的な希望を加えると、進学を志す女子高校生は7割弱になる。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差はほとんどみられない。

(6)教育系の学科・専攻志望度

教育系の学科・専攻については、「進学したい」という積極的志望が21.7%、「進学してもよい」という消極的志望が40.1%、「進学したくない」という非志望が38.2%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に希望する女子高校生は約2割を超え、消極的な希望を加えると、進学を志す女子高校生は6割以上になる。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差はほとんどみられない。

(7)人間科学系の学科・専攻志望度

人間科学系の学科・専攻については、「進学したい」

表14 女子高校生の英米語・文学系の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.進学したい	45.1 (279)	41.1 (260)	42.6 (267)	42.9 (806)
2.進学してもよい	35.3 (218)	36.5 (231)	30.8 (193)	34.2 (642)
3.進学したくない	19.6 (121)	22.4 (142)	26.6 (167)	22.9 (430)

(注) 表内の数値は%、()内の数値は実数
 $F=2.478, df=2/1875, n.s.$

という積極的志望が28.3%、「進学してもよい」という消極的志望が44.1%、「進学したくない」という非志望が27.6%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に希望する女子高校生は約3割に達し、消極的な希望を加えると、進学の意志を表明する女子高校生は7割以上になる。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差が存在し、学年が進むにつれて、進学を積極的に希望する女子高校生が10%以上増加している。

(8)芸術系の学科・専攻志望度

芸術系の学科・専攻については、「進学したい」という積極的志望が19.7%、「進学してもよい」という消極的志望が31.5%、「進学したくない」という非志望が48.8%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に希望する女子高校生は約2割おり、消極的な希望を加えると、進学の意志を表明する女子高校生は5割を越

える。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差がいくらかみられ、学年が進むにつれて、進学を希望しない女子高校生がやや増加している。

(9)生活科学系の学科・専攻志望度

生活科学系の学科・専攻については、「進学したい」という積極的志望が16.9%、「進学してもよい」という消極的志望が40.8%、「進学したくない」という非志望が42.3%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に希望する女子高校生はあまり多くないが、消極的な希望を加えると、進学の意志を表明する女子高校生は6割近くなる。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差がみられ、学年が進むにつれて、進学を積極的に希望する女子高校生が10%以上増加している。

表15 女子高校生の歴史・文化系の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.進学したい	25.1 (155)	24.3 (154)	23.4 (147)	24.3 (456)
2.進学してもよい	45.0 (278)	42.5 (269)	40.0 (251)	42.5 (798)
3.進学したくない	29.9 (185)	33.2 (210)	36.5 (229)	33.2 (624)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
F=1.857, df=2/1875, n.s.

表17 女子高校生の人間科学系の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.進学したい	21.2 (131)	28.8 (182)	34.8 (218)	28.3 (531)
2.進学してもよい	48.9 (302)	44.5 (282)	38.9 (244)	44.1 (828)
3.進学したくない	29.9 (185)	26.7 (169)	26.3 (165)	27.6 (519)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
F=8.459, df=2/1875, p<.001

表16 女子高校生の教育系の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.進学したい	23.1 (143)	20.9 (132)	21.1 (132)	21.7 (407)
2.進学してもよい	40.5 (250)	40.4 (256)	39.6 (248)	40.1 (754)
3.進学したくない	36.4 (225)	38.7 (245)	39.4 (247)	38.2 (717)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
F=0.851, df=2/1875, n.s.

表18 女子高校生の芸術系の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.進学したい	20.7 (128)	21.8 (138)	16.6 (104)	19.7 (370)
2.進学してもよい	34.8 (215)	30.2 (191)	29.7 (186)	31.5 (592)
3.進学したくない	44.5 (275)	48.0 (304)	53.7 (337)	48.8 (916)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
F=5.304, df=2/1875, p<.01

(10)理学系の学科・専攻志望度

理学系の学科・専攻については、「進学したい」という積極的志望が12.7%、「進学してもよい」という消極的志望が24.1%、「進学したくない」という非志望が63.2%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に希望する女子高校生は1割強にすぎず、消極的な希望を加えても、進学の意志を表明する女子高校生は4割に満たない。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差がみられ、学年が進むにつれて、進学を希望しない女子高校生が15%以上増加している。

(11)工学系の学科・専攻志望度

工学系の学科・専攻については、「進学したい」という積極的志望が9.7%、「進学してもよい」という消極的志望が22.5%、「進学したくない」という非志望が67.7%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に

希望する女子高校生は1割以下であり、消極的な希望を加えても、進学の意志を表明する女子高校生は約4割にすぎない。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差はほとんどみられない。

(12)医歯薬系の学科・専攻志望度

医歯薬系の学科・専攻については、「進学したい」という積極的志望が20.0%、「進学してもよい」という消極的志望が31.4%、「進学したくない」という非志望が48.6%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に希望する女子高校生は2割であり、消極的な希望を加えると、進学の意志を表明する女子高校生は5割になる。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差がいくらかみられ、学年が進むにつれて、進学を積極的に希望する女子高校生がやや減少している。

(13)農水畜系の学科・専攻志望度

農水畜系の学科・専攻については、「進学したい」という積極的志望が4.8%、「進学してもよい」という消極的志望が18.4%、「進学したくない」という非志望が76.8%であり、この学科・専攻に対して、進学を積極的に希望する女子高校生は極めて少数であり、消極的な希望を加えても、進学の意志をもつ女子高校生は約2割にすぎない。この学科・専攻への志望度に関しては、学年差はほとんどみられない。

5. 概 括

本研究の具体的目的は、広島市内における私立四年制女子大学の設置に関する地域からの要求度を解明することであった。その一貫として、本研究では、広島市と広島市近郊の女子高校生の大学進学意識の実態を

表19 女子高校生の生活科学系の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全 体 N=1878
1.進学したい	11.0 (68)	17.4 (110)	22.2 (139)	16.9 (317)
2.進学してもよい	42.4 (262)	40.9 (259)	39.2 (246)	40.8 (767)
3.進学したくない	46.6 (288)	41.7 (264)	38.6 (242)	42.3 (794)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
 $F=11.066$, $df=2/1875$, $p<.001$

表20 女子高校生の理学系の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全 体 N=1878
1.進学したい	15.0 (93)	13.7 (87)	9.4 (59)	12.7 (239)
2.進学してもよい	27.0 (167)	27.5 (174)	17.7 (111)	24.1 (452)
3.進学したくない	57.9 (358)	58.8 (372)	72.9 (457)	63.2 (1187)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
 $F=16.149$, $df=2/1875$, $p<.001$

表21 女子高校生の工学系の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全 体 N=1878
1.進学したい	8.9 (55)	10.0 (63)	10.4 (65)	9.7 (183)
2.進学してもよい	20.9 (129)	25.3 (160)	21.4 (134)	22.5 (423)
3.進学したくない	70.2 (434)	64.8 (410)	68.3 (428)	67.7 (1272)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
 $F=1.511$, $df=2/1875$, $n.s.$

分析した。

(1)大学進学希望者の割合

大学（四年大・短大）への進学を積極的に希望する女子高校生は93.0%に達し、大学進学に対する熱意は極めて高いことが判明した。

(2)志望大学の規定要因

女子高校生が大学（四年大・短大）へ進学する目的としては、「専門的な知識を身につけるため」(54.2%)、「資格・免許をとるため」(50.2%)、「幅広い教養を身につけるため」(48.8%)が上位にランクされている。

具体的に志望する大学・学部・学科（四年大・短大）を決定する際の条件として、女子高校生は、「希望する学部・学科・専攻がある」(85.8%)を第1位にあげており、これに続いて「難易度（偏差値）が適当である」(61.1%)や「希望する資格・免許がとれる」(49.8%)を重視している。

表22 女子高校生の医歯薬系の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.進学したい	21.0 (130)	24.0 (152)	15.0 (94)	20.0 (376)
2.進学してもよい	33.0 (204)	30.0 (190)	31.1 (195)	31.4 (589)
3.進学したくない	46.0 (284)	46.0 (291)	53.9 (338)	48.6 (913)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
 $F=8.583, df=2/1875, p<.001$

表23 女子高校生の農水畜産の学科・専攻志望度

	1年生 N=618	2年生 N=633	3年生 N=627	全体 N=1878
1.進学したい	3.1 (19)	6.0 (38)	5.3 (33)	4.8 (90)
2.進学してもよい	19.7 (122)	17.4 (110)	18.0 (113)	18.4 (345)
3.進学したくない	77.2 (477)	76.6 (485)	76.7 (481)	76.8 (1443)

(注) 表内の数値は%, ()内の数値は実数
 $F=0.697, df=2/1875, n.s.$

女子高校生が、一般に進学を希望する学部・学科（四年大・短大）としては、「人文系」(64.3%)が最も人気が高く、「教育系」(35.6%)、「生活系」(25.2%)、「医歯薬系」(22.9%)、そして「芸術系」(22.5%)の順になっている。

(3)私立四年制女子大学への進学希望者

四年制大学への進学を積極的に希望する女子高校生は79.6%に達し、四年大か短大にこだわらない13.4%の生徒を加えると、実に93.0%の女子高校生が四年大への進学意志を持っているといえ、四年制大学志向が極めて強い。

地元の大学（四年大・短大）への進学を積極的に希望する女子高校生は54.6%と半数を越え、地元か地元こだわらない24.4%の生徒を加えると、79.0%の女子高校生が地元大学への志向をかなり持っているといえる。

私立大学（四年大・短大）への進学を積極的に希望する女子高校生は42.5%であるが、私立か国公立かにこだわらない33.7%の生徒を加えると、76.2%の女子高校生が私立大学への志向をかなり持っているといえる。

女子大学（四年大・短大）への進学を積極的に希望する女子高校生は21.7%であるが、女子大か男女共学かにこだわらない36.7%の生徒を加えると、58.4%の女子高校生が女子大学への志向を持っているといえる。

(4)広島市内私立四年制女子大学の特定学科・専攻への進学希望者

広島市内の私立四年制女子大学のどのような学科・専攻へ女子高校生が進学を積極的に希望しているかをみると、第1位のグループ（約4割）が「英米語・文学系」(42.9%)、第2位のグループ（約3割）が「人間科学系」(28.3%)、第3位のグループ（約2割）が「歴史・文化系」(24.3%)、「教育系」(24.3%)、「医歯薬系」(20.0%)、「芸術系」(19.7%)、「日本語・文学系」(19.3%)、「生活系」(16.9%)となっている。

(5)結論

女子高校生の四年制大学志向、地元大学志向（四年大・短大）、私立大学志向（四年大・短大）、そして、女子大学志向（四年大・短大）は非常に強く、そのような志向を示す女子高校生は、それぞれ約9割、約8割、約8割、約6割も存在している。

広島市内の私立四年制女子大学に対して進学を希望する女子高校生が多数存在することが実証され、地域

社会において広島市内の私立四年制女子大学に対する極めて強い進学への要求が存在していることが解明された。

女子高校生が進学を積極的に希望している広島市内の私立四年制女子大学の学科・専攻は、第1が「英米語・文学系」、第2が「人間科学系」であった。

女子高校生の大学進学意識に関する本研究の結果は、広島市内の私立四年制女子大学の設置に対する女子高校生のニーズが極めて高いものであることを実証した。

引用文献

- 淵上克義 1984 進学志望の意志決定過程に関する研究 教育心理学研究, 第32巻, 59-63.
- 権藤与志夫 1974 高校生の進路決定に関連する諸要因に関する調査研究 九州大学教育学部紀要, 第20巻, 105-121.
- 高等教育研究会(編) 1991 大学の多様な発展を目指して I・II・III ぎょうせい
- 浜田哲郎 1975 志望動機の因子構造と因子類型に関する研究 テオリア, 第18巻, 1-18.
- 井上健治・上野一彦・野口裕之 1975 大学受験と高校生活(1) 東京大学教育学部紀要, 第15巻, 103-129.
- 米田 博 1979 大学受験生の進学志向と自己概念 広島大学学校教育学部紀要, 第1巻, 1-8.

深田成子 (コミュニケーション学科)

高野卓郎 (短期大学 幼児教育科)